



2026年7月21日

健康福祉部保健予防課

マダニが媒介する感染症が発生しました

令和8年7月17日に市内医療機関より、海外渡航中に感染したと推定されるダニ媒介脳炎患者の発生の届出がありました。

ダニ媒介脳炎の多くは、ダニ媒介脳炎ウイルス（TBEV）を保有するマダニに咬まれることで感染します。主に国外での報告があり、国内においては北海道でのみ患者発生が認められており、本件は県内1例目の届出になります。

マダニはダニ媒介脳炎ウイルス以外にも人に感染する病原体を保有していることがあるため、注意喚起として広く情報提供するものです。

1 患者の概要

(1) 属性：80歳代 男性

(2) 経過：

～6/13（土） 海外渡航中にダニによる刺咬を確認

6/22（月） 全身倦怠感

6/29（月） 微熱、運動時振戦、軽度の構音障害、複視

6/30（火） 38℃以上の発熱、食欲低下、胃痛、嘔吐

医療機関を受診

7/5（日） 容態が悪化し、入院

7/7（火） 医師が症状等からダニ媒介感染症を疑い、松本市保健所に連絡

7/17（金） 国立感染症研究所による検査の結果、ダニ媒介脳炎のIgM抗体検査で陽性と判明

※患者のプライバシーの保護のため、本人等が特定されることのないよう、提供資料の範囲内での報道をお願いします。

2 ダニ媒介感染症の特徴について

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことです。主なダニ媒介感染症として、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、ダニ媒介脳炎、ツツガムシ病、日本紅斑熱、ライム病などがあります。

病名	潜伏期間	主な症状
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	6～14 日程度	主な初期症状は発熱、全身倦怠感、消化器症状（嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、重症化し、死亡することもある
ダニ媒介脳炎	7～14 日程度	突然の発熱、頭痛、悪心、嘔吐等の髄膜炎症状が見られる
ツツガムシ病	5～14 日程度	全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症する。重症になると肺炎や脳炎症状を呈する
日本紅斑熱	2～8 日程度	発熱、発疹、刺し口が主な徴候であり、ほとんどの症例にみられ、頭痛や倦怠感を伴う
ライム病	3～30 日程度	マダニ刺咬部を中心とする限局性の特徴的な遊走性紅斑を呈し、筋肉痛、頭痛、発熱、悪寒、倦怠感などのインフルエンザ様症状を伴う

3 予防方法とダニに咬まれた場合の対応

- (1) 春から秋にかけて、農作業やレジャーなど、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。野外活動でダニに咬まれないようにすることが重要です。
- (2) 野外では、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくしましょう。
- (3) 虫よけ剤（忌避剤）の併用も効果が期待できます。
- (4) 野外活動後は、シャワーや入浴でダニに咬まれていないかチェックしましょう。ダニの咬着（咬みついたまま皮膚から離れない状態）を発見した場合は、無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で適切な処置を受けましょう。
- (5) ダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が現れた場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診の際はダニに咬まれたことを伝えてください。

お問合せ先
健康福祉部保健予防課 TEL：0263-40-0702（直通） （課長：藤松 美紀 担当：小山田）